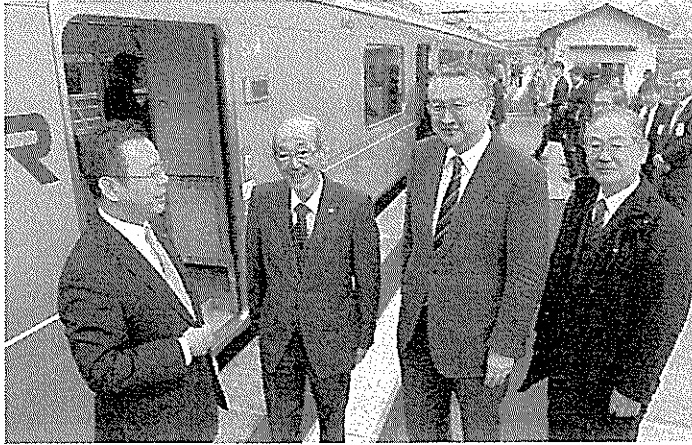


# 6年ぶりに運転再開

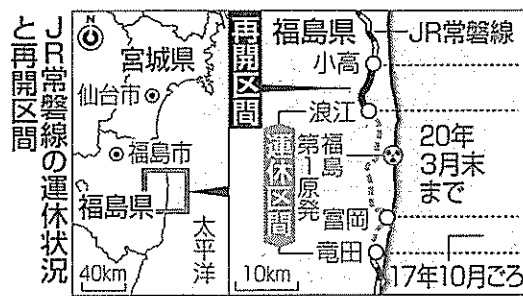
## JR常磐線 浪江—小高間 福島復興の原動力

東日本大震災と東京電力一連休していた福島県内のJR常磐線のうち、浪江(浪江町)―小高(南相馬市)間の8・9キロが1日、運転を再開した。浪江町の避難指示が帰還困難区域を除き3月31日に解除されたことに合わせた。6年ぶりに鉄

小高駅で運転再開を喜び合う高木副大臣と馬場浪江町長(右隣)ら＝1日 福島・南相馬市



高木副大臣が式典に出席



JR常磐線の運休状況と再開区間

路が仙台圏とつながった。JR東日本は、残る運休区間の竜田(楡葉町)―浪江間(27・7キロ)について、2020年3月末までの全線開通をめざしている。

同日、小高駅から電車で乗車し、浪江駅での記念式典に出席した高木陽介経済産業副大臣(原子力災害現

地対策本部長川公明党は、「故郷で生活を再開する町民の心強い支えになると確信する」と強調。馬場有町長は「運転再開は復興の大きな原動力だ。次世代に引き継ぐ町を力の限り再生していく」と語った。

南相馬市に避難している東海林サチ子さん(61)は、浪江行きの始発列車に乗車。先頭車両の前方に立ち、懐かしい風景に目を細めていた。降車後、町の新たな誕生日。一歩ずつ元の姿を取り戻していくんだね」とほほ笑んだ。